

〔報 告〕

若い未婚女性の子育て肯定感を育てる要因 —成育環境としての家庭の人的環境との関係—

岡山県立大学

中 川 英 一

要 旨

母親が子育てに対する肯定感を持っていれば、子どもの心を大事にした子育てができるものと考えられる。子育てに肯定感を持つ場合、そのベースには子育てを楽しむことのできる心が育っていなければならない。子どもが好きかどうかはその基礎をなす。「子どもが好き」に育つには子どもの心に共感できることが必要である。他者の心に対する共感性が育つのは情緒が安定する成育環境下で育つことが大事である。人が育つ場合の基本的な成育環境として家庭という場に注目し、そこでの人的環境が「子どもが好き」に育つこととどんな関係があるかを調べた。子どもが欲しい理由の「子どもが好き」という回答を中心に家庭の人的環境との関係を探った。

結果として、母親、父親により印象を持ち、母親、父親が好きであるとした者に「子どもが好き」と回答した者が多く、また兄弟仲のよい者にも子どもが好き者が多かった。親子関係がよく、また兄弟関係がよいことがよい家庭のイメージをつくり、そこで育つ者の情緒の安定が保証されて子どもが好きになり、子育てに対する肯定感につながるものと思われる。

キーワード：子育て肯定感、子どもが好き、家庭、人的環境、若い女性

はじめに

昨今わが国では子どもの心の状態から発生するさまざまな問題が山積し、また世界に例をみない悲惨な事件が多発化する様相を示している。また一方では少子化が進みつつあり共に将来の社会に暗い影を落としている。この状況下で子育ての大切さが改めて感じられるのである。

今子どもの心の問題を引き起こしている原因は、端的にいえば、子どもの心を振り返ることなく、大人側の都合や意思を優先しつづつくりあげた大人社会にある。そのような社会において心の自由を失い、また「自分が大事にされている」という自己存在感を失う。そのための不安と不満によってストレスが鬱積し、ちょっとしたことをきっかけに「キレる」子ども

が増えているのである¹⁾。

家庭は子どもの基礎的な成育環境であるが、そこではすでに親を通して子どもが大人社会からの影響を受ける。家庭で子どもの人格の基礎づくりがなされることからすれば、家庭という成育環境がいかに大事であるかは論を待たないであろう。

子どもの心を大事にする子育てが子どもの信頼を得て子どもの心を安定させる。安定した心はいきいきとした精神活動を生み出して子どもが本来備えている育ちの力を効率よく発揮させて力強い育ちにつながるのである¹⁾。まず家庭において子どもの心が大事にされることが子どもの育ちの基礎をつくるのに大事である。

家庭において子どもの心を大事にした子育てをするには親が子育てに対して肯定的な気持を持ち合わせ、そのもとで子育てを楽しむことができることが

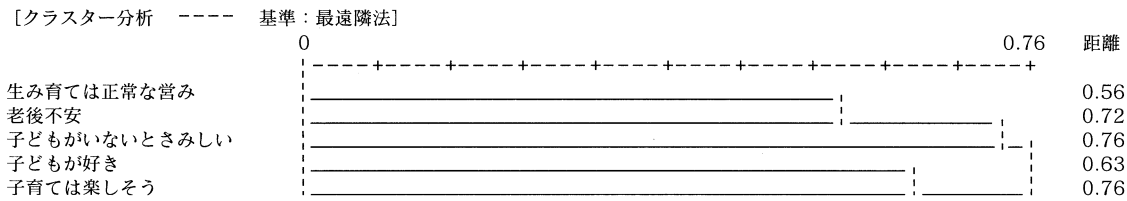


図1. 子どもの欲しい理由についての分布

必要である。子育てを楽しむことができるためには子どもの心を感じ取り、子どもの心に共感できなくてはならない。他の心に対する共感性が育つ条件として自分自身の情緒の安定が欠かせない¹⁾²⁾³⁾。子どもの心へ共感できれば子どもへの愛情が育まれる。

子どもの心に共感し、子どもを愛しみ、子育てを楽しむものと肯定的に受け止めることが可能になる大事な条件は、その個人の成育過程における精神的環境が優れていることであろう。本論ではその条件を基本的な成育環境である家庭で検索することとし、いずれ母親となるであろう若い女性とその育った家庭環境との関係に焦点を合わせ検討を行った。

1. 研究方法

東京都内にあるS短大、及び岡山県内のO大学の女子学生のうち、25歳未満の者、計628人を対象に質問紙法で調査を行った。子育てに対する肯定感、子どもが欲しいか否か、子どもが欲しい場合の理由という観点からみた。

調査時期は1996年10月である。調査用紙はS短大、O大学とも教室内で配布し、その場で記入してもらって記入後直ちに回収した。集計及び統計解析にはLotus 1・2・3とHALBAU-4を使用した。

2. 結果

1) 子どもが欲しいかどうか () 内は%

- 「欲しい」……………594 (94.6)
- 「欲しくない」……………29 (4.6)
- 「不明」……………5 (0.8)

2) 子どもの欲しい理由 () 内は%

注1: 3つ以内で複数回答可

注2: 「不明」の1例を除いたn=593の集計結果

- a. 子どもが好き……………378 (63.7)
- b. 子どもがいないときみしい……………296 (49.9)
- c. 子育ては楽しそう……………192 (32.4)
- d. 生まれては正常な営み……………145 (24.5)
- e. 老後が不安……………69 (11.6)
- f. その他……………34 (5.7)

3) 子どもの欲しい理由に関わる項目のクラスター分析

図1に示すように「子どもが好き」、「子育ては楽しそう」の両回答は同一クラスターに属すとみられる。

4) 子どもの欲しい理由のI群、II群への回答(表1)

表1の中で子どもの欲しい理由の回答において、「子どもが好き」に○をした者の集合をI群、そうでない者の集合をII群とする。この表に示すように「子育ては楽しそう」に○をした者はI群にその割合が高かったが、「子どもがいないときみしい」、「生まれては正常な営み」、「老後不安」に○をした者はそれぞれII群にその割合が高かった。

以上の結果から子育てを楽しむものと受け止め、積極的に受容することのできる項目としては「子どもが好き」、「子育ては楽しそう」である。「子どもが好き」だから「子育ては楽しそう」になるのであり、「子どもが好き」は子育て肯定感の基礎になるものと考えられる。そこで「子どもが好き」という項目を子育て肯定感の指標として取り上げ、「子どもが好き」という心を育む条件を家庭環境の人的環境の中で探ることにする。

5) 子育て肯定感を育てる家庭の人的要因

(1) 母親

表1. 子どもが欲しい理由のうちの「子どもが好き」かどうかとその他の理由との関係

() 内は %			
子どもが好きかどうか その他の子どもの欲しい理由	I群 (n = 378)	II群 (n = 215)	有意水準
子育ては楽しそう	144 (38.1)	48 (22.3)	***
子どもがいないときみしい	167 (44.2)	129 (60.0)	***
生み育ては正常な営み	62 (16.4)	83 (38.6)	***
老後不安	27 (7.1)	42 (19.5)	***

注1: 表中の () はI群, II群に属する者の中で左列の項目に○印をした者の割合
注2: 有意水準 (***) p < 0.001

表2. 「母親が好き」と「子どもが欲しい」との関係

() 内は %			
子どもがほしいかどうか 母親が好きかどうか	子どもが欲しい	子どもが欲しくない	計
LM群	526 (96.2)	21 (3.8)	547 (100)
NLM群	73 (90.1)	8 (9.9)	81 (100)
計	599	29	628

p < 0.05

表3. 「母親が好き」と「子どもが好き」との関係

() 内は %			
子どもが好きかどうか 母親が好きかどうか	A群	B群	計
LM群	342 (62.5)	205 (37.5)	547 (100)
NLM群	36 (44.4)	45 (55.6)	81 (100)
計	378	250	628

p < 0.01

注: 母親が「好き」と回答した者の集合をLM群, 「嫌い」, または「どちらとも言えない」, または「その他」に回答した者の集合を合わせてNLM群とする.

①母親が「好き」かどうかと子どもが欲しい, 欲しくないの関係

母親が「好き」かどうかとの関係では, 表2に示すように, NLM群に「子どもが欲しくない」と回答した者の割合が高い.

②母親が「好き」かどうかと「子どもが好き」との関係

注: 子どもの欲しい理由で「子どもが好き」と回答した者の集合をA群, 「子どもが好き」に○をしなかった者の集合と子どもは欲しくないと回答した者の集合を合わせたものをB群とする. (A群は, 前出のI群と同じ集合である.)

表4. 母親の印象と「子どもが好き」との関係

() 内は %				
母親の印象	A群, B群	A群 (n = 377)	B群 (n = 250)	有意水準
やさしさの中にもきびしさあり		245 (65.0)	133 (53.2)	**
活発な感じがした		175 (46.4)	85 (34.0)	**
明るい感じがした		247 (65.5)	140 (56.0)	*
話しやすかった		262 (69.5)	151 (60.4)	*
あたたかみが感じられた		271 (71.9)	159 (63.6)	*
優柔不断		9 (2.4)	22 (8.8)	**

注1: 表中の () はA群, B群のそれぞれにおいて左列の項目に○印をつけた者の割合
注2: 有意水準 (** p < 0.01 * p < 0.05)

表5. 母親の印象と「母親が好き」との関係

() 内は %				
母親の印象	LM群, NLM群	LM群 (n = 546)	NLM群 (n = 81)	有意水準
あたたかみが感じられた		407 (74.5)	23 (28.4)	***
話しやすかった		395 (72.3)	18 (22.2)	***
明るい感じがした		360 (65.9)	27 (33.3)	***
やさしさの中にもきびしさあり		354 (64.8)	24 (29.6)	***
時に指示するが大体子どもの意向を尊重		295 (54.0)	24 (29.6)	***
活発な感じがした		238 (43.6)	22 (27.2)	**
きびしく支配的だった		15 (2.7)	17 (21.0)	***
話しにくいかった		22 (4.0)	18 (22.2)	***
自己中心的		58 (10.6)	19 (23.5)	***
口やかましく, 過干渉だった		95 (17.4)	40 (49.4)	***

注1: 表中の () はLM群, NLM群のそれぞれにおいて左列の項目に○印をつけた者の割合
注2: 有意水準 (***) p < 0.001 ** p < 0.01

表3に示すようにLM群に, NLM群に比較してA群に属する者の割合が高かった.

③母親の印象と「子どもが好き」との関係 (表4)

母親の印象として「やさしさの中にもきびしいところがあった」, 「活発な感じがした」, 「明るい感じがした」, 「話しやすかった」, 「あたたかみが感じられた」の各項目ではそれぞれ統計的な有意差がみられ, A群に属する者の割合が高く, また「優柔不断」でも有意差がみられこの項目に○をした者ではB群に属する者の割合が高かった. なお, 「きびしく支配的」, 「時に指示はするが大体子どもの意向を尊重」, 「口やかましく過干渉」, 「放任的」, 「過保護」, 「暗い」, 「話しにくい」, 「もの静か」などの各項目ではA群, B群間に統計的な有意差はみられなかった.

④母親が好きかどうかと母親の印象

表5に示すようにLM群では「あたたかみが感じ

表6. 「父親が好き」と「子どもが欲しい」との関係

() 内は %			
子どもが欲しいかどうか 母親が好きかどうか	子どもが 欲しい	子どもは 欲しくない	計
LF 群	387 (96.5)	14 (3.5)	401 (100)
NLM 群	212 (93.4)	15 (6.6)	227 (100)
計	29	599	628

p < 0.08

られた」、「やさしい中にもきびしいところがあった」、「時に必要な指示はするが、大体は子どもの意向を尊重していた」、「明るい感じがした」、「活発な感じがした」、「話しやすかった」という印象を答えた者の割合がNLM群よりも有意に高く、またNLM群では「きびしくて支配的だった」、「口やかましく過干渉だった」、「自己中心的」、「話しにくかった」という印象を答えた者の割合がLM群よりも高かった。

「放任的だった」、「過保護だった」、「もの静かな感じがした」、「暗い感じがした」、「優柔不断」の各項目ではLM群、NLM群の間に有意な差はみられなかった。

(2) 父親

注：父親が「好き」と回答した者の集合をLF群、「嫌い」、または「どちらとも言えない」、または「その他」に回答した者の集合を合わせてNLF群とする。

①父親が「好き」かどうかと子どもが欲しい、欲しくないの関係

表6に示すように、NLF群に「子どもは欲しくない」と回答した者の割合が高い傾向がみられたが、統計的な有意差にはなっていない。

②父親が好きかどうかと「子どもが好き」との関係

表7に示すようにLF群に、NLF群に比較してA群に属する者の割合が高かった。

③父親の印象と「子どもが好き」との関係 (表8)

父親の印象として、「頼りがいがある」、「明るい感じがした」、「話しやすかった」、「やさしさの中にもきびしいところがあった」の各項目でA群に属する者の割合が統計的な有意さをもって高かった。「存

表7. 「父親が好き」と「子どもが好き」との関係

() 内は %			
LF 群, NLF 群 A 群, B 群	A 群	B 群	計
LF 群	258 (64.3)	143 (35.7)	401(100)
NLF 群	119 (53.1)	105 (46.9)	224(100)
計	377	248	625

p < 0.01

表8. 父親の印象と「子どもが好き」との関係

() 内は %				
父親の印象	A 群, B 群	A 群 (n = 377)	B 群 (n = 249)	有意水準
頼りがいがある		188 (50.1)	98 (39.4)	**
明るい感じがした		133 (35.5)	63 (25.3)	**
話しやすかった		158 (42.1)	75 (30.1)	*
やさしさの中にもきびしさあり		133 (35.5)	67 (26.9)	*
存在感なし		16 (4.3)	25 (10.0)	**

注1：表中の()はA群、B群のそれぞれにおいて左列の項目に○印をつけた者の割合

注2：有意水準 (** p < 0.01 * p < 0.05)

在感がない]でも統計的有意差がみられ、B群にこの回答をした者の割合が高かった。また、「時に指示するが子どもの意向を尊重」、「口やかましく過干渉」、「放任的」、「過保護」、「頑固」、「きびしく支配的」、「エネルギーシユ」、「暗い」、「自己中心的」、「優柔不断」、「弱々しい感じ」、「話しにくい」などの各項目ではA群、B群間に統計的な有意差はみられなかった。

④父親が好きかどうかと父親の印象 (表9)

LF群ではNLF群に比べて、「あたたかみを感じられた」、「時に必要な指示はするが、大体は子どもの意向を尊重していた」、「やさしさの中にもきびしいところがあった」、「明るい感じがした」、「決断力に富む」、「エネルギーシユ」、「頼りがいがある」、「話しやすかった」という印象を回答した者の割合が有意に高かった。また、NLF群ではLF群に比べて「口やかましく、過干渉だった」、「放任的だった」、「頑固だった」、「きびしくて支配的だった」、「暗い感じがした」、「自己中心的」、「存在感がない」、「優柔不断」、「弱々しい感じがした」という印象を回答した者の割合が有意に高かった。「過保護だった」の回答には両群間で統計的に有意な差はみられな

表9. 父親が好きかどうかと父親の印象

父親の印象	LF 群, NLF 群		有意水準
	LF 群 (n = 399)	NLF 群 (n = 223)	
あたたかみを感じられた	266 (66.7)	47 (21.1)	***
時に指示するが大体子どもの意向を尊重	242 (60.7)	65 (29.1)	***
頼りがいがある	240 (60.2)	46 (20.6)	***
話しやすかった	201 (50.4)	32 (14.3)	***
やさしさの中にもきびしさあり	170 (42.6)	30 (13.5)	***
明るい感じがした	162 (40.6)	34 (15.2)	***
決断力に富む	124 (31.1)	30 (13.5)	***
エネルギーが豊富	83 (20.8)	13 (8.1)	***
自己中心的	66 (16.5)	90 (40.4)	***
話しくかつた	51 (12.8)	80 (35.9)	***
頑固だった	125 (31.3)	111 (49.8)	***
きびしくて支配的だった	27 (6.8)	44 (19.7)	***
口やかましく、過干渉だった	26 (6.5)	51 (22.9)	***
存在感がない	10 (2.5)	31 (13.9)	***
優柔不断	10 (2.5)	24 (10.8)	***

注：有意水準 (*** p < 0.001)

表10. 「両親とも好き」と「子どもが好き」

子どもが好きかどうか 両親とも好きかどうか	() 内は %		
	A 群	B 群	計
両親とも好き	250 (66.3)	127 (33.7)	377 (100)
少なくとも片方は好きといえない	128 (51.0)	123 (49.0)	251 (100)
計	378	250	628

p < 0.001

つた。

(3) 両親とも好きかどうかと「子どもが好き」との関係

表10に示すように「両親とも好き」と答えたものは、少なくとも片方は好きといえないと答えたものよりA群に属する者の割合が高かった。

(4) 兄弟仲と「子どもが好き」との関係

「仲はよい」と回答した群(C群とする)と、「(兄弟の中で)仲のよい者とよくない者がある」、「仲がよいとも悪いとも言えない」、「仲は悪い」の3つをまとめた群(D群とする)とを比較したところ、表11に示すようにC群ではD群に比べてA群に属する者の割合が高かった。

(5) 家庭のイメージと「子どもが好き」との関係

家庭が「明るく楽しい」と回答した群(E群とする)と「とくに明るく楽しいわけではないが、居づらくもない」、「暗い感じがしていやだ」、「かたぐるしく窮

表11. 兄弟仲と子どもが好きかどうかとの関係

兄弟仲	子どもが好きかどうか		
	A 群	B 群	計
C 群	250 (64.3)	139 (35.7)	389 (100)
D 群	94 (50.0)	94 (50.0)	188 (100)
計	344	233	577

p < 0.01

注：表中のC群は「兄弟仲はよい」と回答したものの集合、D群は「仲のよい者とよくない者がある」、または「仲がよいとも悪いとも言えない」、または「仲は悪い」に回答した者の各集合を合わせたものである

表12. 家庭のイメージと子どもが好きかどうかとの関係

家庭のイメージ	子どもが好きかどうか		
	A 群	B 群	計
E 群	255 (67.3)	124 (32.7)	379 (100)
F 群	120 (51.3)	114 (48.7)	234 (100)
計	375	238	613

p < 0.001

注：表中のE群は「明るく楽しい」と回答した者の集合、F群は「とくに明るく楽しいわけではないが、居づらくもない」、または「暗い感じがしていやだ」、または「かたぐるしく窮屈でいやだ」に回答した者の各集合を合わせたもの

屈でいやだ」の3つをまとめた群(F群とする)とを比較したところ、表12に示すようにE群ではF群に比べてA群に属する者の割合が高かった。

3. 考察

子育てに対する肯定感を子どもが欲しいか欲しくないか、及び子どもが欲しい場合の理由からみると、そのような肯定感を育てる条件を基本的な成育環境としての家庭の人的環境について検索してみた。

将来子どもは欲しくないとする者は5%に満たないで大部分の者が子どもを持つようとしている。しかしその理由においては「子どもが好き」だからや「子育ては楽しそう」だからというような子育てを楽しもうとする積極的な肯定感もあれば、「子どもがいなときみしい」から、「子どもを生み育てることが正常な営み」だから、「老後になって不安」だからなどのような比較的消極的なものがある。

「子どもが好き」という理由と他の理由との関係を

みたところ、「子育ては楽しそう」と回答した者ではⅠ群に属する者の割合がⅡ群よりも高いが、「子どもがいないときみしい」、「生み育ては正常な営み」、「老後不安」と回答した者の割合はそれぞれⅡ群の方が高かった。また子どもの欲しい理由をクラスター分析したところ、「子どもが好き」と「子育ては楽しそう」の二者は同一クラスターに属し同質なものであることが示唆される。

以上の結果と、「子どもが好き」に回答した者が6割を越え最多であることを考え合わせると、子どもが欲しい理由での「子どもが好き」という回答を子育て肯定感を示す指標として用いることができると考えた。

次に「子どもが好き」との関連において子育て肯定感を育てる家庭要因（成育環境としての家庭的要因）をみることにする。

まず母親という人的環境との関連においては、LM群の方がNLM群に比べて「子どもが欲しい」とか「子どもが好き」というように子育てに肯定的な気持を示す者の割合が高い。また父親との関連においてもLF群がNLF群に比べて「子どもが好き」という者の割合が高く、「子どもが欲しい」とする者でも、統計的に有意ではないが、LF群に高い傾向が示されている。母親や父親という家庭における人的環境がそこで育つ娘（本調査の対象者）に子育て肯定感を育てる要因になっていることが示唆される。

さらに母親、父親のどんな印象が娘に子育て肯定感を育てるかについては、母親、父親ともやさしさ、明るさ、話しやすさのあることが関与している。さらに母親ではあたたかみと活発さが、父親では頼りがいが関与している。

妊婦を対象として母性意識の形成に影響する因子を調べた斎藤らの研究では、子どもの頃の母親との関わりで、母親にあたたかい印象を持っていた者はそうでない者に比べて母性意識が高かったと報告している⁴⁾。また斎藤らの母性意識に関する研究の第2報では子どもの頃に母親と会話経験の多かった者が少なかった者に比べて母性意識が高かったとして

いる⁵⁾。斎藤らのいう「母性意識」は平井の定義⁶⁾から「子どもを欲し、子どもを受容する気持」であり、それは「子どもの立場に立つて子どもを思いやる心」から生まれるものであるとしている。すなわち子どもの心に共感しそれを受容できる心である。この心は子どもの心に感じ入り、子どもが好きになることをベースとしている。本論では「子育て肯定観」という表現をしその指標を「子どもが好き」にしているが、斎藤らの得た結果は本研究の結果を一部裏打ちするものと考えてよいであろう。

さて「母親が好き」、「父親が好き」が子育て肯定感を育てる要因として関与しているが、母親、父親のどんな印象を受けて娘が「母親が好き」、「父親が好き」になるかを調べてみた。母親、父親について共通するものは「あたたかみ」、「話しやすい」、「子どもの意向を尊重」、「明るい」、「やさしさ」などの印象が関与している。それ以外は母親では活発さが父親では頼りがい、決断力あり、エネルギーなど印象が関与している。表5や表9の点線以下の印象は母親、父親それぞれのマイナスの印象であるが、母親では「優柔不断」、父親では「存在感なし」が特に「子どもが好き」の育ちに対してマイナス要因となっている。

また表10にみるように両親とも好きであると答えた者の群では、両親のうち少なくとも片方は「好き」とはいえないと答えた者の群よりA群に属する者の割合が高く、親という人的環境の影響が裏打ちされる。

次に兄弟仲との関連であるが、表11にみたようにD群よりもC群にA群に属する者の割合が高く兄弟仲のよいことと「子どもが好き」に育つことの間に関係があることがわかる。そして母親、父親が好きかどうかと兄弟仲との関係を調べたところ、母親が好きな者、父親が好きな者の69.4%、72.8%がそれぞれC群に属しているのに対し、母親が好きといえない者、父親が好きといえない者ではC群に属する者はそれぞれ47.9%、56.2%であり統計的な有意差がみられた（母親が好きとの関係では $p<0.001$ 、父親が好

きとの関係では $p < 0.0001$). このように兄弟仲のよい群には母親が好きな者, 父親が好きな者が多いが, 親という人的環境のよいことが兄弟仲にも影響するものと思われる.

また家庭のイメージと親, 兄弟という家庭の人的環境との関係を調べてみたが, 母親が好きな者, 父親が好きな者, 兄弟仲がよい者では, E群に属する者がそれぞれ 65.8%, 72.3%, 69.4% であったのに対して, 母親は好きといえない者, 父親は好きといえない者, 兄弟仲はよいといえない者では E群に属する者はそれぞれ 23.5%, 38.8%, 42.8% であった. 検定結果はいずれも $p < 0.000001$ であり, 家庭の人的環境がよい者では家庭イメージがよいとする者が多いのは当然のことであろう.

家庭環境の中でその人的環境はそこで育つ者の心理に強い影響を与えることは想像に難くない. 本研究ではそこに育つ者にとって親子関係がその心理にまず大きな影響を持つことが示唆された. 親子関係という大事な関係がよい状態であれば, そこで育つ者の情緒は安定し, 感性が優れ, 精神活動がいきいきとする. 他者の心に対する共感性はこうした状況の

もとに育つのである²⁾. 子どものあどけなさや純粋さを感じ入り, 共感することが子どもを好きになることを促すと考えられる.

以上みてきたように, 成育環境として基本的な家庭という場において, 親や兄弟という人的環境のよいこと, そして家庭のイメージがよいことが子どもを好きである者を育て, 子育てに肯定的な気持を持つ者を育むという関係がみられた.

〔受付 '98.1.13〕
〔採用 '98.4.27〕

文 献

- 1) 中川英一: 成育環境と子ども, 高文堂出版, 1997
- 2) 帆足暁子, 平井信義, 千羽喜代子: 「思いやり」の精神構造とその発達過程について(第3報), 大妻女子大学紀要—家政系— 第27号: 69—80
- 3) 平井信義, 中川英一, 長山篤子他: 「思いやり」の精神構造とその発達過程について, 上廣倫理財団, 1993
- 4) 斎藤益子, 瀬口チホ, 本松研一他: 妊婦の母性意識とその形成に影響する因子, 母性衛生, 第33巻第1号: 64—70
- 5) 斎藤益子, 塚田トシエ, 高山巖: 「未婚女性の母性意識」とその形成に影響する因子, 母性衛生, 第35巻第1号: 38—44
- 6) 平井信義: 失われた母性愛, 黎明書房, 73—81, 1977

〈資料〉

〔関連調査項目〕

問1 あなたは一人っ子ですか、該当するものに○をして下さい。

- (1. はい 2. いいえ)

☆ 「いいえ」に○をした方は次の問に答えて下さい。

問2 あなたと兄弟、姉妹との仲はどうか、次の中から該当するものを選んで○をして下さい。

1. 仲はよい 4. よいとも悪いとも言えない
2. 仲は悪い 5. その他()
3. 仲のよい者とよくない者がある。

問3 あなたが今までに、あなたの母親について感じていたことについて下にあげたもののうち該当するものすべてに○をつけて下さい。

1. あたかかみが感じられた 9. もの静かな感じがした
2. やさしさの中にもきびしいところがあった 10. 活発な感じがした
3. きびしくて支配的だった 11. 暗い感じがした
4. 時に必要な指示はするが、大体は子どもの意向を尊重していた 12. 優柔不断
5. 口やかましく、過干渉だった 13. 自己中心的
6. 放任的だった 14. 話しやすかった
7. 過保護だった 15. 話しにくかった
8. 明るい感じがした 16. その他()

問4 あなたは、あなたの母親が好きですか、該当するものに○をして下さい。

1. 好き 3. どちらとも言えない
2. 嫌い 4. その他()

問5 あなたが今までに、あなたの父親について感じていたことについて下にあげたもののうち該当するものすべてに○をつけて下さい。

1. あたかかみが感じられた 10. 決断力に富む その他()
2. やさしさの中にもきびしいところがあった 11. エネルギッシュ
3. きびしくて支配的だった 12. 暗い感じがした
4. 時に必要な指示はするが、大体は子どもの意向を尊重していた 13. 自己中心的
5. 口やかましく、過干渉だった 14. 存在感がない
6. 放任的だった 15. 優柔不断
7. 過保護だった 16. 頼りがいがある
8. 明るい感じがした 17. 弱々しい感じがした
9. 頑固だった 18. 話しやすかった
19. 話しにくかった

問6 あなたは、あなたの父親が好きですか、該当するものに○をして下さい。

1. 好き 3. どちらとも言えない
2. 嫌い 4. その他()

問7 あなたはあなたの家庭について子どものころからどんなイメージをもっていましたか、該当するものに○をつけて下さい。

1. 明るく楽しい
2. 家庭が特に明るく楽しいわけではないが、居づらくもない
3. 暗い感じがしていやだ
4. かたぐるしく窮屈でいやだ

問8 あなたは将来子供を何人欲しいですか、該当するものに○をして下さい。

1. 子供は1人だけでよい 5. 子供は5人以上欲しい
2. 子供は2人欲しい 6. 子供は欲しくない
3. 子供は3人欲しい
4. 子供は4人欲しい

問9 問8で1～5に○をした方に伺います。将来結婚して子供が欲しい主な理由を下の選択肢から3つ以内を選んで○をして下さい。

1. 子供が好きだから 4. 老後になって不安だから
2. 子供がいなくてさみしいと思うから 5. 子育ては楽しそうだから
3. 子供を産み育てることが正常な営みと思うから 6. その他()

問10 問8で6に○をした方に伺います。将来結婚して子供が欲しくない主な理由を下の選択肢から3つ以内で選んで○をして下さい。

1. 子供は嫌いだから
2. 子育ては身体的、精神的に大変そうだから
3. 自分の自由がなくなり、やりたいことができないと思うから
4. 子育てにお金がかかりそうだから
5. 子供のことがわからないので、子育てに自信がないから
6. いじめや登校拒否、非行などいろいろ子供の問題を耳にしているから
7. その他()